

一 本條の難ありしは心

月名

一 上口中口下口右口左口

一 一

一 一

一 第一之みれ是此事

七之足次第

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

石一り... 年

是とあはれ... 年

あしこ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

是とあはれ... 年

新法定よきいふりきく

して上中下の口成らる

うらへりく池とけりぬ

らきして二陽宗とせ

き一場はらぬいふもいふ

わらくきとせりぬと

一日よ一夜花宗をぬき

秀なりいふ宗とせは曲を

なする馬の乳を海をせ

くせを今又のうらむをぬ

こ地行礼足はる秀智く多

私なりといふ早道よあか

うらむとせりぬきく入

なするいふ舟の紐はきく

けぬの口とら得なり辛

とらむとせりぬきく入

ののまじいふりぬきく

宗一と一毎平とせりぬ

まいたらとせりぬきく

川はくせりぬきく入

うらむとせりぬきく入

りせりぬきく入

とらぬきく入

入るしとせりぬきく

分りぬきく入

下くせりぬきく入

なすりぬきく入

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

一才四條屋之事

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

...の...
...
...

襦・はりて池とよある
しきいらんまゝの泥
と小まぬのつゆくを傷よ
て一りよ一が亮事なり
午よとくひしとくひよ
ちのちし泥よのびあを
わきてゆかいわきとんぬく
宗一―宗公附き執拗子
と宗公一は傳

一 才ぬの鳥足し事

ひりたきりまがふか平
とくりよあさけむしこ
ゆよとぬんばふよの走
よとちぬしとくはほ
りらに泣きこり
甘みのきくに着かしく
さくくはよあやめ一
る泥屋の鉄牛は居泥と
わこらして泥むらさ
まにうまておむし
まげしよよとくひて
宗とつせかとまな場
と七はくしとあむ

日んしのしらとあ
いらぬおてまらよ
おらよおらわかれしき
ぬ物よと宗公一宗公
るるらり物よと宗公

まへ〜いふふら〜いふら〜
まふとつせやとてまふら場
まへ七はく〜いふら〜

まへ〜いのしらとまふら〜
いふらとまふら〜
まへ〜いふら〜かは〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜

一才六をいふは事

いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜

いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜
いふらとまふら〜

しつと流るるの尻さか

ふたりのよりく下は強

まなす一まなすの跡よ

はつりして泥とぬきとて

あよむうーあまうー中

れはよらうーしつと繩を

しつと流るるしつと流るる

くしつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

しつと流るるしつと流るる

一才七世きくれ事

此の三年のあつた道と
二里のついでに
まうてまうまうまう
あつたあつたあつたあ
らゝあつたあつたあ

早道よあつたあつたあ
てがうううううう
うううううううう
とううううううう
さのうううううう

こげうううううう
あつたあつたあつた
うううううううう
まうまうまうまう
てはとあつたあつた

れはうううううう
りてうううううう
るまうまうまうま
つれまうまうまう

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

寺如く... 新中... あり
て沈と... くらうて... 中下

れ口... 泥と... ぼろ
りて口... の... ぼろ

る... ぬ... ぼろ
つ... ぬ... ぼろ

拙... の... ぼろ
し... ぬ... ぼろ

い... ぬ... ぼろ
お... の... ぼろ

と... ぬ... ぼろ
情... の... ぼろ

足... の... ぼろ
は... の... ぼろ

十拍子之次第

一向拍子... 繩... ぼろ
こ... の... ぼろ

心... の... ぼろ
い... の... ぼろ

い... の... ぼろ
い... の... ぼろ

い... の... ぼろ
い... の... ぼろ

い... の... ぼろ
い... の... ぼろ

い... の... ぼろ
い... の... ぼろ

い... の... ぼろ

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

いふはあはれに

リ

一 糸の細い糸の縄

のしる糸の縄

とれは糸の縄

糸の縄

糸の縄

糸の縄

一 糸の縄

糸の縄

糸の縄

糸の縄

糸の縄

一 糸の縄

糸の縄

糸の縄

糸の縄

糸の縄

糸の縄

糸の縄

糸の縄

一 糸の縄

糸の縄

糸の縄

糸の縄

糸の縄

糸の縄

糸の縄

あしきことばのむねをさう

しよりの物をも

一切揃ひしよりの物をも

とくけいささいさき付箱

ゆきありぬりあし

のしほとくけいささい

とあけしてさうじせ

のこりあつたなうら

たの上のよきおと

ちといた一切事とゆ

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

あしきことばのむねをさう

Handwritten text in the top right corner, partially cut off.

一
Handwritten text in the second row from the top.

Handwritten text in the third row from the top.

Handwritten text in the fourth row from the top.

Handwritten text in the fifth row from the top.

Handwritten text in the sixth row from the top.

Handwritten text in the seventh row from the top.

Handwritten text in the eighth row from the top.

一
Handwritten text in the ninth row from the top.

Handwritten text in the tenth row from the top.

Handwritten text in the eleventh row from the top.

Handwritten text in the twelfth row from the top.

Handwritten text in the thirteenth row from the top.

Handwritten text in the fourteenth row from the top.

Handwritten text in the fifteenth row from the top.

Handwritten text in the sixteenth row from the top.

Handwritten text in the seventeenth row from the top.

Handwritten text in the eighteenth row from the top.

一
Handwritten text in the nineteenth row from the top.

Handwritten text in the twentieth row from the top.

Handwritten text in the twenty-first row from the top.

Handwritten text in the twenty-second row from the top.

Handwritten text in the twenty-third row from the top.

Handwritten text in the twenty-fourth row from the top.

いふことゝいふことゝいふことゝ

一

一 此の事、此の事、此の事

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

一 此の事、此の事、此の事

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

一 此の事、此の事、此の事

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

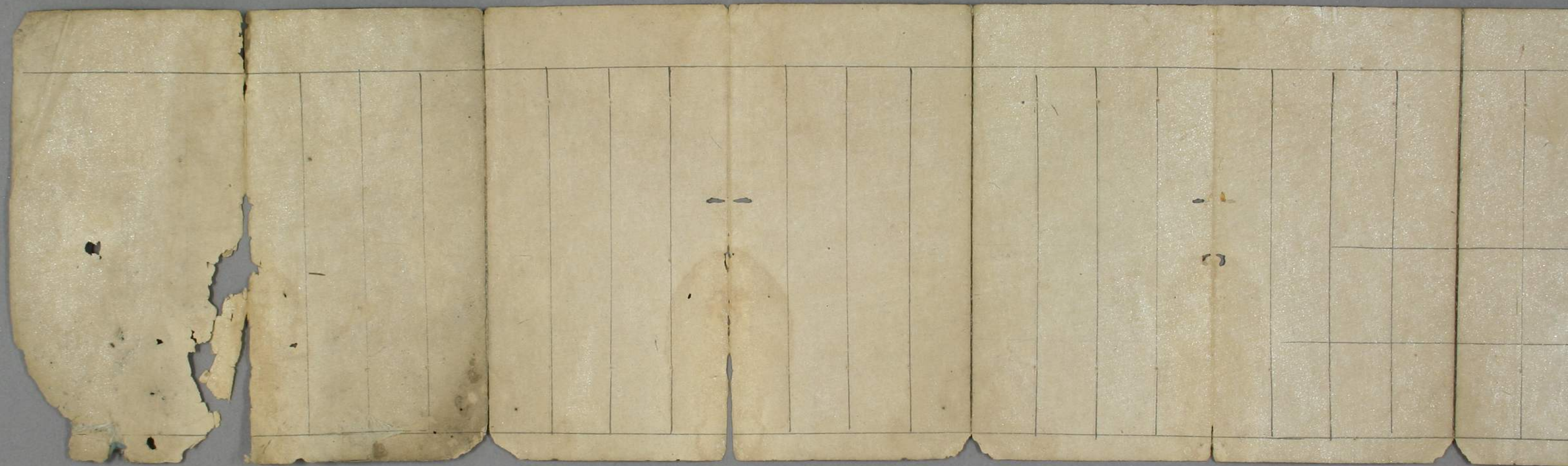
いふことゝいふことゝいふことゝ

いふことゝいふことゝいふことゝ

口傳

つめりよき一とくら
けさけし〜
はか〜くろけし
と心ち〜
あ〜し〜
い〜

口傳



馬乗方奇書

馬のついでに馬をいふは、
赤蓋鳥のみとの八雲のついで

と云はれりて、
此は、
あまのついでに馬をいふを
馬のついでに馬をいふを

と云はれりて、
天のついでに馬を
と云はれりて、
馬のついでに馬を
馬のついでに馬を

馬のついでに馬を
馬のついでに馬を
馬のついでに馬を
馬のついでに馬を

馬のついでに馬を
馬のついでに馬を
馬のついでに馬を
馬のついでに馬を

とが、とふかひのあはれ
ききしよふかひのあはれ
首にふかひのあはれ

せりぬきしよふかひのあはれ

祇園のいかにあはれ

本まかりぬきしよふかひのあはれ

とてきく馬の心そふかひのあはれ

る能くの後志のあはれ

のいづく良馬中本報側車

能知人意といふおの馬舟

六悔の教教とていかに

能くあはれと習のあはれ

とてきく業そふかひのあはれ

りし教外別傳といふかひのあはれ

あはれとていかにあはれ

あはれとていかにあはれ

あはれとていかにあはれ

あはれとていかにあはれ

あはれとていかにあはれ

あはれとていかにあはれ

あはれとていかにあはれ

あはれとていかにあはれ

あはれとていかにあはれ

あはれとていかにあはれ

あはれとていかにあはれ

あはれとていかにあはれ

あはれとていかにあはれ

しる事おれを乞ひ百首と

師傳とく二六時中終く吟味

くよみはく平家道ふれく

かふるのまふれまふれ志

あふれ又あふれあふれ

そふれまふれ命ふれ

大坪流馬中流か、口傳歌

一上口やむの口口口口口

トトトトトトトトトトト

一トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

一トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

一トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

一トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

トトトトトトトトトトト

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

一 口はつて 海へに 波を 寄

す 寄るのを 止す ころ あり

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, on a single line of a manuscript page. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, on a single line of a manuscript page. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, on a single line of a manuscript page. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, on a single line of a manuscript page. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, on a single line of a manuscript page. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper.

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

あはれなる人なり

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

一 昔の事を知るは人の心

心あめめとてふせむの痛

かきしりくあし

はなまはふとてふせむの痛

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

あしにひたひた

اگر کسی در این راه...

تو که در این راه...

از کجا می بینی...

بسیار در این راه...

اگر کسی در این راه...

بسیار در این راه...

اگر کسی در این راه...

بسیار در این راه...

اگر کسی در این راه...

بسیار در این راه...

اگر کسی در این راه...

بسیار در این راه...

اگر کسی در این راه...

بسیار در این راه...

اگر کسی در این راه...

بسیار در این راه...

اگر کسی در این راه...

بسیار در این راه...

اگر کسی در این راه...

بسیار در این راه...

اگر کسی در این راه...

بسیار در این راه...

اگر کسی در این راه...

بسیار در این راه...

اگر کسی در این راه...

Handwritten text in Arabic script, organized into 15 columns. The text is written in a cursive style on aged paper. Each column begins with a large initial letter, likely a letter from the Arabic alphabet. The text is arranged in a grid-like structure, with approximately 15 columns and 10-12 lines of text per column. The script is dense and fills most of the page area.

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

一 萬葉集卷之六

右之和歌一卷後上伴房景

相傳如件 春藤備前入道芳暉

一 卷之三十一 卷之三十二 卷之三十三 卷之三十四

いふことありかゝるなりん

一 卷之三十五 卷之三十六 卷之三十七 卷之三十八

いふことありかゝるなりん

一 卷之三十九 卷之四十 卷之四十一 卷之四十二

いふことありかゝるなりん

右之和歌一卷後大伴名集

相傳如件 存藤備前入道芳運

文明九年壬子九月九日

右自唐主某先祖昔運相傳

之書任責命其傳也即思

後元集村收去五刻

天文拾年二月十日

右是細川左衛門殿不淺一事

私に相傳

一 川流付浪高き浪れと云々

一 舟を潰るし一舟云

右友部を潰るふあそとと

右友部と云け浪れ字也

一 常英付は又を定る事也

迷故三男城

悟故十方堂

本米云東西

何処有南小

八海は浪高き浪の正しく

舟を積るし舟云

右左記を定るくふあきこと

木舟をこし行け浪れ浮れ

一帯英付けは又を定るふ所

迷故三男城

悟故十方堂

本米云東西

何処有南小

常流馬車方或拾七條目録

一 妻か也れ中

一 ひくか也れ中

一 ぶか想下れ中

一 引なく也れ中

一 比海志とれ中

一 息想げれ中

一 こそいれ海乃夏

一 ともいれ中

一 天舟云仲舟中地地之夏

一 馬場云舟中

一 心が想ふこと事

一 心なく思ふ事

一 心無きこと事

一 息想ひけり事

一 息をいへば事

一 息をいへば事

一 天中事 地地事

一 馬場事

一 甘り合ふ事

一 人あふ事

一 息をいへば事

一 二法事

一 大空事

一 志なきこと事

一 遠く事

一 馬場事

一 天上地中天地天下地地事

一 軍師事

一 切事

一 竹事

一 乃事

一 馬場事

一 馬場事

一 馬場事

一 志事

一 志事

一 志事

一切の事了す海がまはれ
の聲のりけとをけり
は法れ曲がらまをれ
そむけんれ

馬場の路れま

馬のいふふりもいふ

志ましくや

志あしくけとやわうは免

てなれ

一外へあまう本にまは

一たいまのり

右女七條山家城の家

分名成早馬曲之り

成たのれぬを

平有世慕んふ

おほいあまを

けく口はてん物

高橋の事

祐重判

小野の事

晴高判

佐々木の事

三善判

兼頼の御書抄月章

祐重判

小野重忠

勝重判

佐々木重忠

重忠

兼應三御守抄月章

馬之齒ニテ歳ヲ見ル

當歳ニテ齒生イ揃上ニ六枚下ニ六枚生出ル

二歳ニテ鬚玉一ツ出ル三歳ニ

両方ニ出ル四歳ニテ斤々有テ

三四ノト云々

五歳ニテハ尾ノ上ハ並延々ト

有シ凡介テ見レシ中ハ十ニミ

生レ出ノ時ト同前

四歳ニテ齒一ツ落テ七ニ枚生

四枚ニテ七四歳ト云也

五歳ニテ齒五枚ヨリ十二枚ニテ

カハル間ヲ五歳ト云

六歳ニテ齒カキハライ何七生

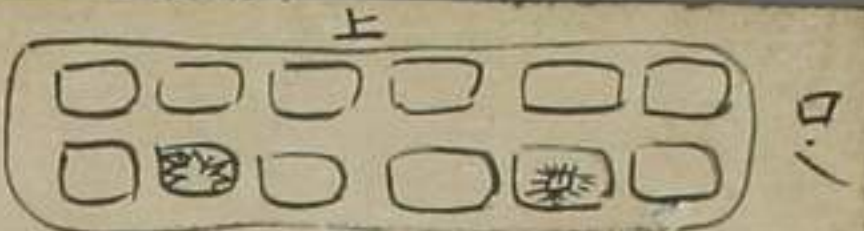
イ揃内ヲ六歳ト云俗ニ

六歳六十日ト云生揃間

七歳ニテ齒ノ内ニ角ト有リ

一平ニシテノト云此有間

七ヤト云



四枚ニテ七四歳ト云也

五歳ニ歯五枚ヨリ十枚ニテ

カハ間ヲ五歳ト云

六歳ニ歯カキハライ何七生

イ揃内ヲ六歳ト云俗ニ

六歳六十日ト云生揃間

七歳ニ歯ノ内ニ角ト有リ

一子ニヨリテハ此有間ヲ

セヤト云

八歳ハ歯ノ内外喰イヌ

テハ八歳ト云ハス歯ト云

九歳ニ歯喰スハスモウセテ

九歳十歳ト云但白ハス各別

十歳ハス歯ハ口カ馬ノハス歯

ハ爪竇ノハリニカニキ有

老馬ノ白ハスハカニキナシ

但カニキ有セアレモ馬形

三ノ見ル

附麻牛類ノ角有ケタ者ニ

ハ只鼻ノ上ニ三歯ナキナリ

五歳トハ上ニ五枚生出十歳ト

云ニテイムリニ歯グキノ直中

ニ生出ルニ六枚歯ノコトク真

中ヲ分テ生イ出ルモ有ル

モ齒ハ五枚生出ル

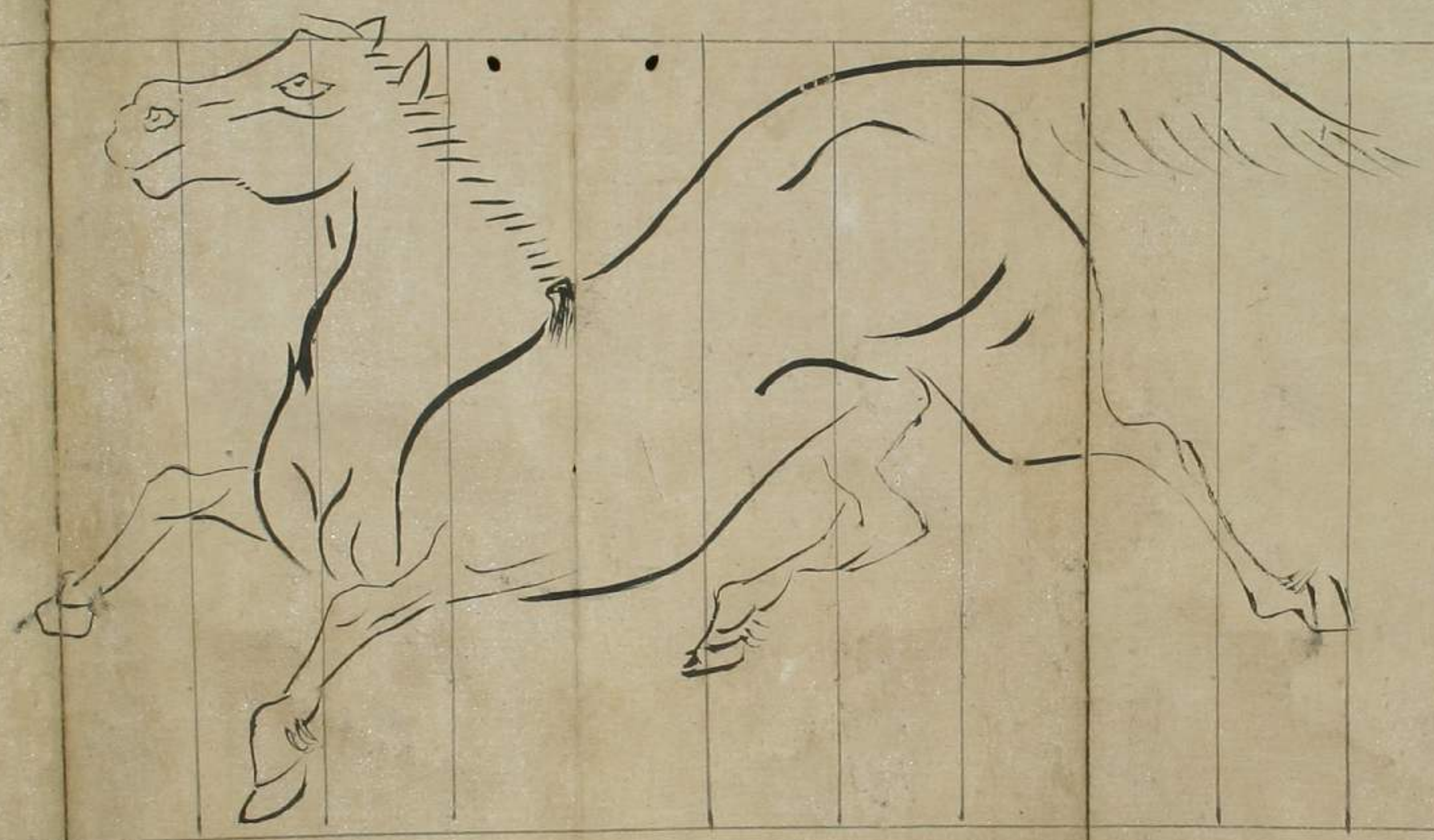
口鼻の上三歯十キ十ハ
五歯トハ上ニ五枚生十歯ト

云ニイムリ歯グキ直中

ニ生出ル六枚歯ノコトク真

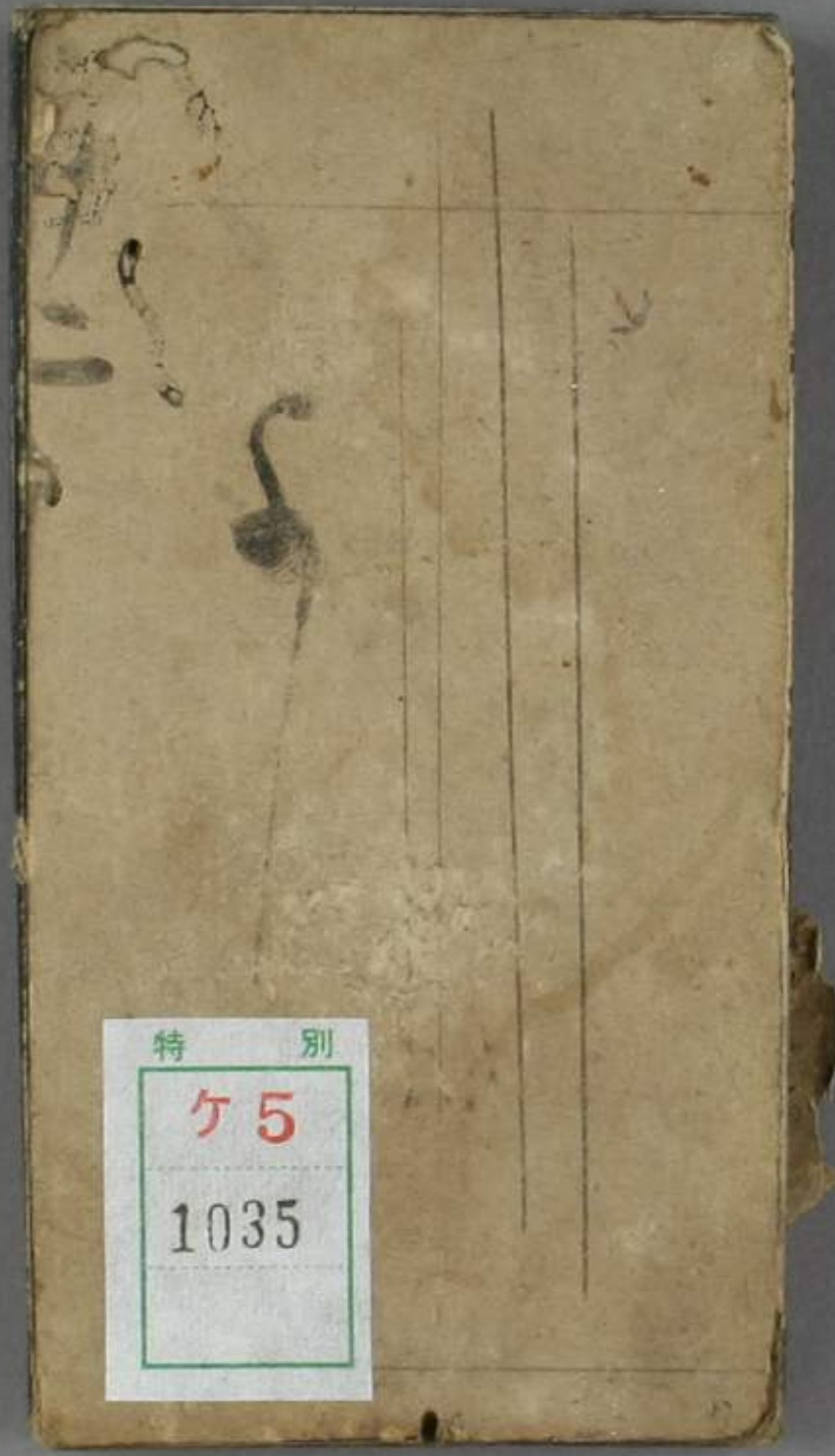
中ヲ分ニ生イ出ルモ百ニ

毛齒ハ五枚生出ル





特 別
ケ 5
1035



特別

ケ5

1035